

1 提案の主張点

数学的な考え方の育成へのコンピューターやプロジェクターの活用を行った。「デンカケ」や「こうぐ」, 「実物提示装置」などを用いて課題や教材の提示の仕方を探ってみた。

基礎基本の定着や数学的な考え方の育成をねらった効果的な少人数指導の工夫では、TT の一斉授業から習熟度別コース学習や課題別コース学習へ、あるいはその逆の流れや組み合わせで展開する中で、この単位では習熟度別コース学習から TT による一斉指導に戻ったとき、課題選択コース学習から TT による一斉指導に戻ったときの学習活動を工夫することによって、別なコースを選んだ児童同士が交流し会える場を設定した。

2 提案に対する意見

導入に使う教材はさまざまだが、連続量を用いた意図は何ですか。

啓林館の教科書に載っていたので使った。他の教科書とは比較していない。

少人数授業のコースの分け方で劣等感なく分ける分け方って言っていたが、どのようにしてわけたのか。

じっくりコース(基礎)が多くて、補充したい児童にじっくりと教えることができないのが実態だったが、2つのコースともレベル差はないということで、意見を出し合うコースと自分で考えていくコースに分けて、人数が均等になるように工夫している。

児童の自己評価を見ていると、教師の評価で「はなまる」と「まる」との差があるがどのような時にどのような丸をつけているのですか。

具体的に自分の考えが自己評価ノートに書けていると「はなまる」をつけている。子どもたちが「はなまる」をもらうには、どのようなことを自己評価ノートに書けばよいのかを他の人のノートを見ることで考えることができるし、自分の自己評価力の向上がねらいである。

3 御指導

コンピューター・情報機器利用のいい所は、

子どもが興味を持つ

提示がすぐできる

見やすい・きれい

動きがある

共有化できる(劣化がない) という所である。

反対に短所は、

準備や手間がかかる

わけのわからないエラーがでる

抽象化すぎないかどうか

ぱっと出過ぎる

という点である。

長所・短所をうまく使って利用していけばいい。

また、平均については、「平均水槽(学研)」を利用すると、合計・ならすの動作ができわかりやすい。

子どもたちが考えを述べるのを、いっしょに式化していくのが教師の仕事。子どもたちと共に算数を創って行って欲しい。

教材研究が大切である。

例えば、研究紀要125ページの第2次「平均を使って(自分の歩幅を求めよう)」の実践では、扱う数が大きすぎるので、最初はもう少し子どもが分かりやすい小さな数を使って考えさせることが大切である。そして、子どもが理解してきたらだんだん数を大きく難しくしていくといい。

また、121ページ・122ページの授業形態の所だが、理解しにくい児童に対してどのような方法で補充をしていけばいいのかということに重点をおいて取り組んでほしい。

平均では、いろいろなデータを比べることから始まる。いくつかの種類の教科書があるが、学校図書の教科書がこの単位では使いやすいのかなと思う。教材研究を行い、手をかえ品をかえ実践して行ってほしい。そして、標本集団から母集団へと広げていく教材の工夫も必要だと思う。

少人数授業についてだが、理解できているから発展コース、理解がしにくいから補充コースというふうなコース分けにするのではなく、どのような学習方法をとって学習するのがその児童に合っているのかということを考えてコース分けをするべきだと思う。そして個に応じた手立てを考えて実践をしていく必要がある。教師側もいろいろなアイデアを出しながら手立てを考えたり、実践していくためにも、ゆとりをもって進めていくことが大切である。